

平成30年度 第6回白井市市民活動推進委員会会議録（概要）

1. 開催日時 平成31年3月11日（月）午後10時～正午
2. 開催場所 白井市役所 東庁舎3階 会議室303
3. 出席者 関口宏聡委員長、清水洋行副委員長、黒添 誠委員、石川史郎委員、
福留千亜紀委員、秋本紀子委員、大田茂子委員、迫田妙子委員、
吉井信行委員、五十君みつる委員、浅海仁美委員（名簿順）
4. 欠席者 なし
5. 事務局 岡田課長、松岡主査、長谷川主事
石垣しろい市民まちづくりサポートセンター長
6. 傍聴者 1名
7. 議 事
 - (1) 平成31年度市民団体活動支援補助金について〔公開〕（資料1、2）
 - (2) 小学校区単位のまちづくりの推進経過と今後の取り組みの見通しについて〔公開〕
（資料3、4）
 - (3) 平成30年度しろい市民まちづくりサポートセンター下半期事業報告について
〔公開〕（資料5）
 - (4) 平成31年度しろい市民まちづくりサポートセンター事業計画（案）について〔公
開〕（資料6）
 - (5) 平成31年度市民活動推進委員会の予定について〔公開〕（資料7）

8. 会議概要

[委員長] それでは、皆さんおはようございます。本日もお集まりいただきまして、ありがとうございます。大荒れの天気だということで、私も来られるかどうか若干心配だったのですけれども、無事に皆さんおそろいですので始めさせていただきます。平成30年度第6回の白井市市民活動推進委員会です。よろしくお願いいたします。

本日は、議題が五つと盛りだくさんでございますので、時間にかなり気をつけて進めていきたいと思っております。それでは早速ですが、事務局から資料の確認等をよろしくお願いいたします。

《事務局より欠席委員等の報告、会議資料を確認》

- (1) 平成31年度市民団体活動支援補助金について〔公開〕（資料1、2）

[委員長] では早速ですが、一つ目の議題に入りたいと思っております。きょうは五つあるのですけれども、一つくりとして1番と2番はまとまりとしてありまして、3番、4番は、まちサポがこれでほぼ1周年ということで、まちサポさんに関するところがあ

りますので、それで分けていきたいと思います。

最初は、平成31年度の市民団体活動支援補助金について、よろしく願いいたします。

《事務局より資料1、2に基づき説明》

[委員長] 無事ゼロではなく、10団体を目指してというところですが、今のご説明について、補助金制度についてご質問ある方、どうぞ。

[委員] 最初の2ページ、3ページなのですが、ホームページをつくったとあったのですが、アクセス数とかその反応がもしあれば教えてほしいのと、あと次の4ページ目で、「チャレンジ！補助金」についてもう一回そこを改めて説明してください。

[事務局] ホームページの反応なのですが、アクセス数みたいなものは担当課からは確認していないところなのですが、私の実体験の中で、1団体だけ「チャレンジドスポーツ」という団体さんが1回来たことがありました。スマートフォンでホームページを開いて「これを聞きに来たのですけれども」というふうに出しに来た方は、1人だけいらっしゃいました。ということで、一応見ている方はいらっしゃるのだと、ちょっとほっとしております。

もう一つの4ページにあります「チャレンジ！補助金」の件なのですが、この補助金の講座自体が、先ほど申したとおり白井市民まちづくりサポートセンターの事業として実施をしたのですけれども、講座については、市民活動団体の運営するに当たり切り離すことのできない、お金の話、うちの補助金がメインではないのですけれども、お金の話を講座の中心に据えて、市民活動団体向けに去年の12月1日と8日の2日間連続講座というのを実施しました。初日がまちづくりサポートセンターの専門コーディネーターから、そもそもその補助金を獲得する意義だとか、そういうようなものの説明を行いました。2日目、12月8日については、補助金の説明を1日目にやりましたので、8日には実際に市がやっている補助金、今回この市民活動団体支援補助金なのですが、これについて私が一応講師として2時間ほどずっとしゃべって、説明会をさせていただきました。この補助金が一体どのような団体、公益活動の大切さとか私が言っていたのですけれども、そういうような説明をさせていただいたような感じですね。そのときはまだ31年度の募集というのはいなかったのですけれども、そこで参加された、例えばしろいワクワクひろばさんなんかは、次の2月の応募説明会にも来ていただいて、実際に応募したいなということで申請書の相談とかも受け付けているような状態です。

[委員長] ほかはいかがでしょうか。

[委員] 4ページの「チャレンジ！補助金」と、それから市民活動支援補助金の応募説明会。この中に書いてある、例えば社協さんとか第三小学校区の防災連合、こういったところも、聞きに来られたということはいいのですけれども、補助金の対象になるの

でしたか。例えば地区社協には社会福祉協議会から補助金が出ているので、ダブルでもらえるものなのかなど。それから、防災連合というのは、これは多分第三小学校区のまちづくり協議会の中でできたのだと思うのですけれども、補助金は別の形で出ているから、こういうのも対象になるのでしょうか。

[事務局] ご質問のとおり、補助金を別から受けている場合はこの補助金の対象にはならないような形になるので、たしか「チャレンジ！補助金」のときの地区社協さんは、地区社協さんの関連でやっている団体さんの話を聞きに来たということで、ごめんなさい、地区社協さんが来たということで書かせていただいているのですけれども、実際に地区社協さんが応募となると、そこで引っかかってくるので、もちろん対象にはなりません。同じく第三小学校区の防災連合も、今は自治連合会の第三小学校区支部の中ということなので、もちろん今の状況では補助金の対象にはならないかと思います。ただ、今後、第三小学校区防災連合が独立というか、自治連とは離れてというような運営をする際に、やはり資金面の問題があるということで、今回特に応募をするということではないのですが、どのようなものがあるかなということでお話を聞きに来たというような感じですね。

[委員] 第三小学校区のまちづくりや防災連合というのは、まちづくり協議会の中の防災を担当するというように私は聞いているのですけれども、まちづくり協議会ができると当然市からすごい補助金が出るのです。そんなイメージなので、そこが将来的になるかという話がされましたが、それは将来的にも難しいのではないかという気がするので、その整理をちゃんとしていかなければいけないかなと思うので。少ない補助金をもらいたいと言って、来るのは、それはそれでいいかもしれませんが、あちらもこちらもというわけにはいきませんので。

[事務局] わかりました。ありがとうございます。

[委員長] ほかはいかがでしょうか。

[委員] 今のところで、募集要項の14ページを見ると、募集の単位が事業なので、団体がほかから補助金をもらっていても、それとは違う事業を行うということであれば、要項上は可能ということではないのでしょうか。

[事務局] その事業に補助金を充てていなければ、理屈上はオーケーという形です。

[委員] 要項上は。あとは。

[事務局] そこはご相談の上という感じですね。

[委員] もう一つ、この応募説明会はこれまでもされていて、ことしは応募状況というのは、多いという感じなのですか。それとも少ないという感じですか。

[事務局] 体感では、とって、私が今年からなのであれなのですけれども、かなり多いかなという感覚はしております。これ以外に、今載せている団体さん以外にも、例えば28年度に受けてくださった「まんぷく食堂さん」とかが話を聞きに来たり、あと本当

に説明会の後も、説明会に行った方に聞いたのだけれどもという感じで窓口にいらっしやっている団体さんも連日いらっしやっているので、かなり感覚としては来ているほうだなと思うのですが、それは15日を過ぎてみないとというところにはなってしまうね。

[委員長] 大体こういうものはぎりぎりに申請が来るものなので、きっといっぱい来ることを願っておりますが。よろしいですか。

ほか、いかがでしょうか。よろしいですか。

私からも一つコメントというか、言わせていただくと、これは一応活動促進型と活動発展型というので二つタイプがあると思うのですが、去年はみんな活動発展型だったので、これまで活動促進型でもらっている方々がこの活動発展型にチャレンジしていただけるような、これまで受けた団体への影響といたしますか、PRとかもやっていただければと思うのと、あと活動発展型は同一事業で3回まで受けられるということなので、去年受けていただいたこの3団体さんも、別に無理にとは言いませんが、1年間やっていただいて成果が上がっているのであれば、また来年度、31年度もチャレンジしていただくようにお声がけいただければと思います。

[委員長] そうしましたら、今日もいっぱい議題がありますので、(1)の議題はこれまでとさせていただきますして、続きまして、小学校区単位のまちづくりの推進についての経過と今後の取り組みの見通しについて、また事務局からお話をお願いいたします。

(2) 小学校区単位のまちづくりの推進経過と今後の取り組みの見通しについて [公開]
(資料3、4)

[委員長] ありがとうございます。引き続きこの会議でも何回も出ている小学校区単位のまちづくり協議会についてですけれども、支援職員のチームが無事結成されたところですが、ご質問、ご意見のある方よろしくをお願いします。

[委員] まちづくり協議会はいま、第三小学校区と大山口小学校区でできて、支援チームがここに5名ずつ、もちろん市民活動支援課からも何人か参加されていると思いますが、今準備会の中に自治連合会・地区社協・民児協と、ここが2人ずつでいると6人で、市の方が7人だといびつな感じになって、どこが主体になってやっているのかよくわからない状態になっているかと思いますが、そのあたりはどうなんでしょうか。

[事務局] はい。準備会の構成団体の協議を進めているところですが、この自治連合会、

地区社協、民児協の他、地域に根差した団体さんの名前が挙げられております。PTA、青少年相談員、小学校区によっては小学校、高齢者クラブ、地域の消防団や交通指導員など、様々な地域に根差した団体さんの名前が挙がっておりまして、今、準備会のメンバーとしては最大20名以内ぐらいで構成していきましようかという話がでています。小学校区まちづくり支援チームは5名あるいは6名のチーム員がいるわけですが、現在のところはリーダーとサブリーダーで、地域の打ち合わせに参加して、地域側は自治連合会、地区社協、民児協の3団体の方ということでそれに加えて市民活動支援課が滑り出しということで、打ち合わせに参加している状況です。今後は準備会の立ち上げとともに、約20名ほどの準備会のメンバーと、支援チームの職員が何名か毎回会議に出席して、そこに市民活動支援課も入っていくというような形での会議の進行になっていくと、見通しとしては持っております。

[委員] その準備会において、いろいろな小学校、PTAとか、その方々を早く準備会に入れておかないと、ある程度固まってから入れると「え、もうそこまで来たのか」と思われる気がするので、最初はともかく、3回目ぐらいから様々な団体に声をかけて、来る来ないは別として思いついた団体には声をかけていかないと、なかなか難しいという気がします。清水口にある高齢者クラブには大山口の人が入っている、七次台の人が入っているということもあるんですね。なので、その団体なのか、その地域の人たちなのか、そのあたりの人々をどのように取り込んでいくのが難しいと思います。西白井複合センターで梨の実という、コーヒーを飲ませてくれる場所があるんですけど、そこで主体的にやっている人は大山口の人なんですけど、団体としては清水口小学校区に取り込んでしまっていていいのかな、という気もありますし、そのあたりの整理がうまくできれば良いし、清水口の中でやってるんだから、清水口小学校区の中で名前を連ねてくださいというようなイメージだと私は捉えているんですが。まず、声をかけて、やりますから来てくださいというのが大事だと思います。

[事務局] 今、順次準備会に入っていたかどうかという団体さんには、地域の皆さんから声かけを始めているところでありまして、声をかけさせていただいて、その団体さん、新たに加わっていただくわけなので、団体を対象とした説明会を開催をするという予定をしております。この呼びかけをしていく団体さんの考え方も地域の皆さんと相談をしております。まずはこのまちづくり協議会、あるいは小学校区単位のまちづくりにご賛同をいただけるということ。それから、地域課題の解決や魅力づくりにつながるような団体さんであるということ、その小学校区内で活動をされているということ。この三つを候補団体としてお誘いかけていく要件ということで、地域の皆さんとぼちぼちと声をかけ始めていて、今後説明会を開催した上で、賛同いただける団体さんをなるべく多

く集めた形で準備会に入っていければと今話している最中になっています。

[委員長] 確かにどの段階で開くかということはなかなか難しいところだと思うのですが、ほかに方がいいでしょうか。

[委員] 説明会なのですからけれども、いつごろ考えていますか。

[事務局] 大山口小学校区は、今週の3月16日土曜日に大山口小学校の教室を使って実施をすることに決定しております。第三小学校区は、今呼びかけ団体をどうしようかというところまで話が進んでいて、呼びかけ団体が正式に決まったら説明会を開催するというところまでは決まっているのですけれども、その説明会は、まだ日にちとしてはいつごろということは決まっておりません。

あわせて、公募委員の募集をするということについて、大山口小学校区では若干名公募委員の募集をして、地域に開かれた、あるいは新しい方が団体に属していなくても参画ができるというようなことで4月中旬ごろ、公募委員を対象とした説明会ということで予定をしていこうという話になっております。第三小学校区も公募委員を募集しようというところが今前向きに検討されているという状況になっております。

[委員] 大山口中学校区というのは第三小も入っているのですか。PTA的には入っているのですけれども。大中学区で言ってしまうと、大中、大小、三小なのです。今話したのは、大山口小学校ということでしょうか。

[事務局] 小学校です。

[委員] 大山口中じゃないよね。それを前提にまたお聞きしたいのですけれども、一つは対象者ですね。そこにどういうメンバーが入ってくるのかなというところなのですからけれども、先ほどのメンバーで最初から入れていくのでしょうか。

今のところ実態としては、PTAや小学校、中学校の校長、教頭からはこの協議会を設立するニーズが余り、今のところは薄いのですよね。ただ、それは今の課題であって、新しく今後PTAそのものが今任意加盟になってきて、数が減ってくる可能性もありますし、何と言っても課題は、防犯とか防災とかが中心なのですからけれども、そのところで担い手が減ってくる中で、逆に自治会さんとうまく交流できないかという課題は数年前に出ているのかなという気はしているのですけれども。

それを前提に、最初から無理やり入れるよりは、ある程度の枠を必要とする自治会さんや地区社協さん、地域の方々に集まってもらって、ある程度の範囲で若干ゆるやかにつくっておいてもらって、それを逆にPTA、学校のほうに提案していってもらえると、時間的にもタイミングがいいのかなという面では、今のやり方で私はいいいのかなというふうに思っています。まずメンバーについてお聞きしたいのですけれども。

[事務局] 小学校区単位のまちづくりは、地域の皆さんが主体となって、その地域を住みよいものにしていくという取り組みを行政とともに協働でしていくということが一番重要な点になっておりますので、地域の皆さんがこのまちづくりに参画していこうとい

うようなところが、一番加わっていただく上で大切なところだというふうに思います。参画するタイミングは、準備会から参画するという方法もあれば、協議会が設立されてから参画するという方法もありますし、参画の度合いも、この協議会の、あるいは準備会のメンバーとして参画するという方法もあれば、あるいはサポーターのように、自分の時間を生かして興味関心のある部会、防犯だとか子育てとかというところに柔軟に参画していくという方法もありますので、その辺のところをどのタイミングでも参画できるような形をこれからとっていくということが重要だという話をしています。

まず準備会については、確実に一つ一つ積み上げて、協議会をつくり上げていくという意味では、そういったようなプロセスを踏んでいくことを一緒にやっていきましょうという方とともに進めながら、重要な参画いただきたい団体さんとか個人の方がいらっしゃっても、準備会からの参画はちょっと重荷だったり、時間の中で制約があつてなかなか思ひはあつても皆さんとともに歩調を合わせづらいつた場合には、では協議会のおきにはお誘いをいたしますので、ぜひそれ以降は一緒にともに活動をしていけたらというような、そういうふうに地域の皆さんには柔軟に声かけをし合いながら、理解を得た皆さんから、この準備会、協議会に向かって活動を一步一步積み上げていく。そんなようなイメージであります。

[委員長] ほかの方、いかがでしょうか。

[委員] そもそもなことを聞いてもいいですか。小学校区を第三と大山口に決めた理由的なことを聞きたいなと思います。さっきおっしゃったように、大山口中学校区には大小も第三小も入るのですね。ということは、白井の中でもそちらだけに固まっているイメージがあるので、ちょっとセンターにいと、何でそこに決まったのというお問い合わせが時々あつたりするので、ぜひ理由をお聞かせいただければと思います。

[事務局] このまちづくりを進めていくときに、地域の皆さんの思ひがどの程度お持ちいただけるかどうかというところが、市民主体というところで大切になってくると思います。まず、その働きかけは市のほうからということではあつたわけなのですけれども、働きかけというのは、小学校区の自治連合会、地区社協、民児協のそれぞれの代表の方にお声がけをさせていただいて、市は前々からこういう小学校区単位のまちづくりの構想があるのですけれども、なかなか今進展が見られない中、本格的に市もこういうチームをつくって取り組みを進めていきたいのですけれども、皆さんいかがでしょうかということの説明会をさせていただきました。地域の皆さんがどういふ思ひであるかということ把握していくためには、この3団体の会長のご意見で進めるか進めないか決めていくということは、とても乱暴なことになってきますので、その説明させていただいたことを団体を持ち帰っていただきまして、団体の皆さんの意見を協議という形でしていただき、意向があるかないかということアンケート調査での回答で市に出していただきたいということをお願いをいたしました。場合によっては、地区社協だとか民児

協の会合に改めてお邪魔をして、私どものほうから説明をしたところもあったりしたのですけれども、最終的に3団体の皆さんからアンケートでお寄せいただいた回答を全ての小学校区、9つの小学校区のアンケートの結果を集計させていただいて、その中で意向が高かったと。そして、あわせてこれまでの活動実績というものも加味した結果、第三小学校区と大山口小学校区が一番意向が高かったということで、モデル小学校区に設定をさせていただきました。

[委員] わかりました。ありがとうございます。説明がしやすいです。

[委員長] 私もよくわからなくなってしまったのですけれども、応募があったのは、今回選定された2校区ということですか。

[事務局] 応募というよりも、9つの小学校区に、小学校区単位のまちづくりを進めていくということについての必要性だとか、あるいは進めることになった場合に参画できますかといった趣旨のアンケートをとらせていただいた中で、その中で総合的な得点が高かったところが、9つの小学校区の中で一番意向が高かったというふうに受けとめさせていただいて、その二つのまちづくり協議会の設立に向けた支援ということで、この支援チームを伴って一緒にまちづくり協議会を目指していきましょうというふうになってきています。

[委員] 補足で。小学校区は9つあるのです。それで私たちも各小学校区で活動していますけれども、今のところ見ていると、大小と三小が妥当だなというふうに私も思います。

1つだけ、池小学区なのですけれども、ここは既に防災訓練とかお祭りとか、あそこは唯一お祭りを2日間やりますので、いろんなところが連動はしているのですけれども、聞いたら、もうやっているのでもやりたくない。そういう意味では、池小のほうもちゃんと自治連に話が行って、皆さんの意見を聞いて、もうこれ以上できないということでお断りしてきていますので、その辺を抜かすと、大小さんと三小さんはその辺をいろいろ聞いていますので、PTAも連動していることですので、妥当ではないかと、私から見るとそういう判断をしました。

[委員長] ほかはいかがでしょうか。

[委員] まちづくり支援チームの職員さんなのですけれども、集まられた方の部署というのは、大体いろいろなところからいらしたという感じなのですか。

[事務局] みずから名乗りを上げるということが地域の皆さんとともに活動していく上では大切だということで、公募で名乗りを上げた人たちにチームに入っただこうと考えましたので、部署で何名とか、そういったような募集をしていないことから、結果的に多種多様な部署から、あるいはいろいろな職種も混じって、経験年数も多岐にわたるような形でのチーム編成に至ったということになります。リーダーは課長、サブリーダーが職員歴20年ほどある職員で、2、3年ぐらいの職員や専門職の保健師が入り、職

種と年代と職歴のバランスをとった形でチーム分けを行っております。

[委員長] ほかはいかがでしょうか。まだもう少し時間がありますけれども、まだご発言ない方とか。よろしいですか。

では、私から。気の早い話かもしれないのですが、先ほど、なぜこの2校区かという話とも少しかかわるのですが、これはとりあえず今年2校区選定されたということで、来年度はまた2校区ふえたりとかするのですか。今後の見通しとして、今回の2校区については、先ほどのスケジュールに基づいて、おおむね来年度中にまち協がつくれたらいいなというのはわかったのですが、その他の校区の方々からすると、ほかの校区の方からすると、チャンスがもうないのかなと思われてしまう方もいると思います。

[事務局] ほかの小学校区なのですが、第二小学校区は、公民センターが従来からこのまちづくり協議会に向けてのはたらきかけを行っていくということになっていますので、公民センターが中心に引き続きはたらきかけを行っていきます。

それ以外の6つの小学校区については、多様な団体さんの皆様が集まる意見交換会を実施していくとともに、この2つのモデル小学校区の取り組み事例を幅広く情報発信をしていきたいと思っております。これは池の上小学校区の防災リアル訓練が、先駆けて市内で初めて実施されたときに、その実施をされた情報を地域の皆さんが知って、ほかの小学校区に飛び火していったという例がございます。そういうふうには、地域がやったものをほかの小学校区の住民の皆さんが我が小学校区でもやってみようというふうな形、それを市のほうから、モデル小学校区の実例をいろいろな小学校区にご紹介することによって、市民の皆さんからもやってみようというふうな声が上がってくる小学校区に、また意見交換会以外にもさまざまなことを考えて、小学校区単位のまちづくりが進んでいくような手だてを市で検討していきたいと思っておりますので、そういった場合には、職員のいろいろな事情にもよりますが、また新たなチームを結成してということは、小学校区の機運の盛り上がり次第でまた考えていきたいと思っております。

[委員] 私の所属しているのは国際交流協会なのですね。いわゆる小学校区に特化したという地域団体ではないのですか。こういう団体がどういう形で絡んでいけるのかということなのですが。

[事務局] ちょうどこの小学校区というのは、地域のつながりの中でまちをつくっていくというチーム型のものになっていくのですが、市民活動団体、NPO団体の皆さんは、市を全域活動エリアにしてそれぞれのテーマに沿った活動をされていて、テーマについては非常に強いノウハウを持っていらっしゃると思うのです。小学校区の中でいろいろな地域課題が上がってきたときに、ノウハウが地域にないといった場合、それはノウハウを持っている市民活動団体の皆さんの協力を得て、その地域に入っていくようなそういう接点から、融合というようなものが何かモデルとして出てくればよい

かなというふうに思い描いております。

大山口小学校区の中には、NPO法人コラボしろいという団体さんがあって、地域福祉に関する活動をされていたりとか、あるいはNPO法人まちづくり西白井という団体さんができたりということになっています。そういった白井全体を活動エリアというふうに考えていく中でも、その小学校区に根ざした活動をしていくNPO法人さんだとか市民活動団体さんは、こういったまちづくり協議会をよりよいものにしていくためにも、地域の皆さんと話し合っただけで何か融合できるような機会がつかれていけたらなというふうに思い描いておりますので、ぜひ国際交流協会さんからも、何かそういったご提案などもいただけたらと思います。

[委員] その意味では、1つイメージしていたのが、結果的に各小学校区になるのですが、その中でお住まいになっている外国籍の方と何か問題が起きたとか起きないとか、共生していくにはとか、そういう部分について、一緒になって考えていけることがあるのではないかなと個人的には思っています。

[事務局] それぞれの小学校区に説明会で回ったときに、いろいろな課題をお聞きしたのですが、第二小学校区では外国人の方がふえていて、言葉の問題で少し課題として地域であがってきているという話も来ていますので、小学校区のまちづくり協議会ができるできないにかかわらず、そういったような地域の皆さんに橋渡しをさせていただくということも、それは随時できると思いますので、ぜひまたいろいろなお話を聞かせていただけたらと思います。

[委員長] ほかの方、いかがでしょうか。

[委員] 立ち上がりなので、1つの小学校区に5、6人の職員さんに来ていただいていますけれども、9校全部になった場合、それだけの人数がきつと来ていただけると思うのですが、業務上問題ないですね。

[事務局] 今回のこの11名の職員を募るといったときに、これは初めての取り組みでしたので、職員の皆さんは想像がなかなかつかないところ、職員の説明会をしても、イメージがなかなかつかないというところで、心の中で考えてみたいという職員はもっといたと思うのです。あとは、こういった仕事が今忙しくなっている状況の中で、二の足を踏んでしまったというところがありますので、この小学校区内のまちづくりの事例を地域の皆さんにお知らせしていくのと同じように、小学校区支援チームの活動を職場の中でもお知らせしていったら、皆さんが身近に感じとってもらえる、あるいは地域で活動していくことに対するやりがいとなるようなものと考えていただくようなきっかけをつくって、なるべく多くの皆さんが必要なときにチームという形で結成できるような形で、職員の協働意識もこれからどんどんと促していきたいと思っています。

[委員] 例えば、2月にもう第1回会議とかをされています。3月の終わりごろは異動の季節ではないですか。例えばこの方々は自分の業務があり、新しくそういうまちづ

くりの初めての参画をし、異動だよと言われて、新しいことをまた覚えなければいけない。そういう、この人たちに物すごく負担がかかるのではないかと心配になったりもするので、今後つくっていくのであれば、やっている人がすぐに異動とかそういうことがないといいななんてちょっと思ったりもするのですけれども。

[事務局] 異動があった場合も、この支援チームとしての活動は新しい部署で継続していくということなのですけれども、異動後は新しい仕事を覚えなければいけないという負担が出てきますので、その辺のところは、支援チームと市民活動支援課のお互いの力を合わせて何とか乗り切っていくということになると思うのですけれども、初めての事例ですから、どういったときにどういうことが起きるかということを常時チームの職員からも聞かせていただいて、制度上不備があるところについては見直しをするなど、何かその問題点をそのままにしておかないで、回避できることは改善策として考えていくことが必要になってくると思います。

[委員] 私は自治連の会長をやっていて、本当は私のところが率先してまちづくり協議会をつくっていかなければいけないはずなのですけれども、実はそれをやろうとすると、仕事がふえるのではないかと、皆さんそう思っているのです。市役所の職員の方が、あくまでも支援ですから、主体になってやることではなくて、何か誰かに聞きたいなど思ったときに、その職員メンバーに電話したらその話が全部伝わると。そういう意味の支援ですから、実際出て、何か書類をつくって会議を進行していく、そんなものではなくて、お互いに今やっていることをそのまま生かして連合体をつくろうというのが、このまちづくり協議会だと思うのですよ。私、最初から説明会、それから講演会もそうですし、視察研修もそうですけれども、全部見ているのですけれども、みんなそういうふうに、そんなものをつくったら仕事がふえるのではないと思うのですけれども、そうではなくて、今やっていることをみんながお互いに共有し合って、社協さんが防災訓練やるときに、自治連合会も防災訓練を次の日にやると、そんな無駄なことをやらないで、何かそういうことができるようにしましょうと、そういうことですから、みんな難しく考え過ぎではないかなという気がするのです、もっとおおらかな形でやればいいのに、たまたま5人も6人も支援職員が出ましたとなると、市はすごいことをやるなど、そうではないと思っていただければいいと思います。5人もそろってこんな会議を毎回やると、そんなものではないはずなのです。

[委員長] むしろ仕事を減らすためにやることですよ。わざわざまち協をつくって、その上に無駄をなくしていくということが、結果として限られた人数でどうやって地域を維持していくかということだと思います。

[委員] これは端的に言うと、何かをやるから届け出をしなければいけないと。そうすると、自治会もしくは社協をやるから、わざわざここへ来て文書を出さなければいけない。そんなことではなくて、それは担当職員に頼んだら、俺が出しておくよと、そう

いうわざわざ来なくてもいい、そんな形になれるのではないかと。そういうイメージだというふうに私は理解しているのですけれども、だからそこはおっしゃったように、お互いの手間を省けるようなシステムをつくろうということですから。

[委員長] わざわざこれをつくったがために、無駄など言ってはあれですけれども、無駄な仕事はわんさかふえると、現場で例えば見守りする時間が減ってしまって、逆に本末転倒なので、そこら辺は重々皆さん関係の方々に気をつけていただければと思います。

[事務局] 補足で、先ほど〇〇が説明をしてくれましたけれども、このまちづくり支援チームを結成するに当たってなのですけれども、課長たちを全部呼んで、今回の私どもの取り組みについてを事前に説明をしました。それから職員に対しても説明をして、それから公募という段階を踏んだのですけれども、部長、課長の中には、自分の所属の職員をこの支援チームとして出すということに対しては、自分の仕事もある中で本当にこれができるのかというようなことで、相当な反対をされたというようなところもありました。ですので、私たちのほうは、先ほど〇〇が言ったように、この取り組みを庁内にも十分浸透させるようによく説明をしながら、次回のこれから第3、第4とふえていくように支援チームがうまく活性化するというのと、気持ちよく職員が手を挙げられるような、そんなように私どもでは仕向けていきたいと思っております。

[委員長] よろしいですか。どうぞ。

[委員] 1月19日にまちづくり協議会の講演会がありましたよね。あれでも、龍ヶ崎市のすごいコラボをしているのですけれども、最後に言っていましたよね、活動が重化していると。おっしゃるとおりで、自分のところでもやっていて、こちらでもやらなければいけないという二重になっているという話をしていました、結局。

実は、PTAも千葉県の研究大会が年末にありまして、私も行ってきまして、3つの団体が発表したのですけれども、テーマは一緒なのですよ。PTAも疲弊化しているので、地域でやろうと。それでまさにまちづくり協議会と同じ位置づけなのですけれども、サポートクラブとあって、全部横串でさすようなものです。リーダーズ会議となっているのがあって、それから地域安全情報交換会とか、名前は違いますけれども、いずれにしても一緒なのですよ。それで、できたものはやはり一緒に、結局、二重なのですよ。PTAでもやらなければいけない、リーダーズ会議でも見守りしなければいけない。結局嫌がっちゃっている。共通しているのですけれども、その背景として、それぞれに少子化や高齢化があって、お互いに助け合うところなのですよね。おっしゃるとおりで、ちょっとなくしていこうよと。こちらでやるのであればPTAをやめてしまおうですか、こちらでやっているのであればこちらはやらないとか、そういうすり合わせをしていくのが大事だなというところで、活動の重化を阻止するという面では、コラボアンドスリムと言いますか、コラボしながら協働して情報交換して、活動も同時に減らしてい

くというコラボとスリムの精神が大事かなと思っていますので。

ちょうど白井市は、先走ってというとおかしいですが、先にやっていた人たちの若干失敗もまねしながらやっていますので、そういう面では、事務局や課長を含めてうまく手綱をやりながらやってもらえればなというふうに思っております。

[委員長] まとめていただきました。どうしましょう、休憩を入れたほうがいいでしょうか。一応ここで3分ぐらい、11時まで休憩を挟んで、11時から今度はまちサポさんの件について再開したいと思います。

(3) 平成30年度しろい市民まちづくりサポートセンター下半期事業報告について
[公開] (資料5)

(4) 平成31年度しろい市民まちづくりサポートセンター事業計画(案)について[公開] (資料6)

[委員長] それでは、皆さんお戻りになりましたので再開させていただこうと思います。後半は、最後に予定の調整があるのですけれども、残りは3番と4番で、まちサポさんの下半期の事業報告と、あと来年度の事業計画についてということで、分けて聞いてもいいのですけれども、関連することが多いと思いますので、まとめてご報告等をお話しただいて、同じくまとめて意見交換、質疑にさせていただこうと思いますので、15分ぐらいで両方お話しただけると助かります。

《事務局より資料5、6に基づき説明》

[委員長] ありがとうございます。時間はたっぷりありますので、皆さんからご質問とかご意見、アドバイス等々ありましたらよろしくお願ひいたします。

[委員] 国際交流協会としてですけれども、先日、1月12日から19日までカザフスタン共和国展を多目的スペースで展開をさせていただきました。それに当たってはいろいろな経緯はあったのですけれども、結果で言えば大成功だったのですよ。というのは、しろい市民まちづくりサポートセンターが発足し、その付属施設としての多目的スペースあるいは会議室等々、これが非常によく機能したのです。ただ箱物の、いわゆる大家さんということだけではなく、それを推進するに当たっていろいろなご相談をしたのです。もちろん支援課を含め、まちサポと企画の相談をしながら、親身になって対応していただいたということに非常に感謝をしています。まずそれを申し上げたい。

感謝はもちろんですけれども、機能もできているのです、そういう意味で。その箱だけではなく、それはうちの国際交流協会という団体の性格上の部分もあるのですけれども、結果的には今までの枠を大きく超えて、例えば他市、福島県伊達市、北海道旭川市、あるいは東京都立中央図書館との交流も含めて非常に大きな展開になった。やはりその

ベースには支援課、そしてまちサポの多目的スペースを活用できたということがあります。これは非常に白井市内の団体にとって、これからどんどんいろいろな可能性が展開できていく一つの大きな要素で。

先ほども申し上げたように、ただ箱物の大家さんというのではなくていろいろな相談をして、それで交流というところなのです。交流広場、これは大賛成です。いろいろな団体のそれぞれの個別の企画も取り入れることができる。そのベースというのは、一つの組織としての流れの中でやらなければいけない。これは大賛成です。

もう一つ、それとリンクしているのですけれども、しろい市民まちづくりサポートセンターのポータルサイトやフェイスブックへの誘導ももちろん当然いいのですけれども、もう一つ、配信しろいへの誘導もされているのでしょうか。不勉強なのですけれども、その辺もぜひ検討していただくといいと思います。配信しろいは、白井市の公式 YouTube の部分で、あまり目立っていないのですけれども、これを発信して見ていただければいろいろな白井市の中の基本的には各団体のいろいろな活動というものが発信されている。これは非常に絡んで取り組まれてもいいと思います。

そういう意味では、おかげさまでこの1年間、またうちの協会なり、あるいはほかの団体のいろいろな可能性というものがここで見えてきたような気がしますので、とりあえず本日は、そこだけ申し上げに来たのです。以上でございます。ご質問あったらどうぞ。

[事務局] 配信しろいですか。

[委員] 配信しろいです。YouTubeでやっています。検索すると出てきますので。

[委員長] ほかはいかがでしょうか。

[事務局] 今の補足で、配信しろいは、実は先週からサポートページのここに載るよう
に誘導しております。

[委員] 載っているの。ごめんなさい。

[事務局] 先週からですが、誘導しております。

[委員] あれいいですよ。

[事務局] 少し補足させていただきますと、多目的スペースでカザフスタン共和国展という展示をプロモーションと位置づけ、その1週間後の大使講演会という流れで、結果として、非常に多くの方が大使の講演会にいらっしゃったということです。

空間をうまく利用されたので、多くの方が関心を持つきっかけとなり、大使講演会もにぎわい、国際交流協会の企画によって文化レベルが上がったという流れでございます。

[委員] 企画の過程で、〇〇さんを初めとして各スタッフの方々の親身な、いわゆるご提案を承りましたので、本当にありがたかった。これからもまたいろいろとやっていきたいと思います。皆さんにもお勧めしたいと思います。

[委員] 本当につまらないことを聞いて申しわけないのですけれども、17ページの利用者数の比較のところ、私の理解力が足りないのかもしれないのですけれども、来所

人数のところ、しろい市民まちづくりサポートセンター側の上半期と下半期で通年とあるのですけれども、私、下を見ながら、この数字のあれがよくわからなくて、上半期が3,845人で下半期2,871人で、通年1万1,016人というのは、これは何かほかに要素があったのでしょうか。

[事務局] この数字が、上半期・下半期が来所人数、多目的スペースを除くという、推進センター自体に多目的スペースがなかったものですから、上半期と下半期は来所人数が多目的スペースを除いた人数になっているのですけれども、通年だけ多目的スペースを含む人数で書いてしまったので、すみません。これは誤りですので、純粹にこの上半期と下半期を合計したものが通年になるという形になるので、六千幾つですかね。

[事務局] 6,716。

[事務局] 済みません、そこを訂正でお願いいたします。

[委員] うちの共和国展なんかも、下のほうに入っている。

[委員長] ありがとうございます。

どうぞ。

[委員] 下半期の事業報告をまとめていただいてありがとうございます。こうして見ると、私はかなりこの事業の中に参加させていただいているのだなと思いました。

特に、表紙の集合写真ありますよね。第1回市民活動団体大交流、「大」がつくのですが、大交流会というのものにも参加をしたのですけれども、とても楽しく過ごすことができました。ほかの団体と交流もできて、私はユーカリアンサンブルという団体なのですけれども、ほかの団体とコラボの計画が2件実現しつつあります。とてもいい企画だったと思うので、ぜひぜひ続けてやっていただきたいという思いがあります。それが1点です。

2点目は、さっきからホームページ系のお話が出ていますけれども、まちサポのホームページに登録団体の活動紹介を紹介していく、ぜひそれは実現させていただきたいなと思います。それから、特別に記事をつくるでもいいのですが、それだけではなく、まちサポのホームページへ行ったら、登録団体でホームページを持っている人のところにリンクできるような方法もあるかなと思います。結構盛りだくさんになるかもしれないけれども、関心があって見る人は、その次のことも知りたいのだろうと思うので、網の目を広げるように、深めるようにしていただけたらいいかなと思います。

[委員長] ありがとうございます。何かありますか。

[事務局] 今もホームページに団体一覧もあるのですが、おっしゃるとおり、各団体の活動の情報アップについては、さっそく整備に取りかかりたいと思います。

[委員長] ほか、いかがでしょうか。

[委員] フェイスブックのことはよくわからないのですけれども、この5ページのところにフェイスブックの発信というものがあまして、その中で1月のリーチ数が2000と出ていて、何かいいことがあったのですか。

[事務局] 国際交流協会のカザフスタン共和国展などいろいろあったのですけれども、一番多いのは、じねんじゃーがまちサポを来訪し、それをアップしたところ、2,600リーチの閲覧がありました。そこからシェアもすごく広まっています、ほかのところの追い風があったというのがこの数字でございます。

[委員] 多いのはいいことなので。何だろうなと思って。

[委員長] ほか、いかがでしょうか。

〇〇委員とか〇〇委員、〇〇委員とかどうですか。

[各委員] 大丈夫です。

[委員長] どうぞ。

[委員] 報告を伺って、センターがすごく親しみやすいセンターで、情報発信もされていてすごく開放的なところなのだなと感じました。

質問ですが、サポートセンターのバックボーンの中の育成機能というものがあって、これはボランティアセンターとかほかのセンターとは違うサポートセンターの独特の機能だと思うのですね。それに向けて、センターに関心がある人が来やすくするとか、情報発信する、出会いの場があるということをしていると思います。

今後、育成機能というのは、センターとしてはどこまで視野に入れているのか。例えば何かやりたい人に情報を届けるということでもすごくされているのだと思うのですよね。集まりをつくっていくとか、会をつくって行って、会の整備を進めていく、規約をつくったり、さらには事業化を進めていくという、ある程度サポートセンターと白井市の市民活動の世界というか、こういうところの屋台骨になるようなグループをつくっていくという、育成機能の対象は結構幅広いと思うのですけれども、そのあたりというのは、今考える中ではどんなところが最終的な目標で、今その中ではどの程度まで行っているというような形、どんな感じですか。

[事務局] 既に市民活動を取り組まれている方への育成というのも、とてもおこがましい気がいたします。私たちが捉えている育成というのは、印刷マスター塾やオレンジボードの作成など、一緒に何か活動することで団体の活動の様子をうかがい、まずはコミュニケーションをとっていくところからだと思う所存です。

それから広報講座などは、どのような媒体を、どのように情報発信したらいいのか。今回、団体のニーズがある程度がわかりましたので、さらに全体的に広報のスキルアップできたらいいと思います。

あと補助金についても、皆さんにその趣旨を広くご理解いただいて、実現したい活動のビジョンをしっかりと築く部分での育成が考えられるところです。

[委員] 事業化としているところと事業化の前段階、前といいますか、ある程度このあたりは市民のニーズが形になっているとか、思いが形になっているなどという部分もあると思いますし、もうちょっとセンターとしてアクション、働きかけて掘り起こして

いくということが必要だと思われるようなニーズというか、そのあたりの何か感触がありますか。

[事務局] 協働というところですね。やはり団体の持っていらっしゃるものをご一緒に、企画の段階から協働というカタチで築ければいいと思います。そのプロセスで育成という一面もありますし、交流コーディネートなどいろいろな要素が絡んでの協働になっていくと思います。今年については、まず各団体に集まっていただいて、そこで企画から第一歩を始めるという取り組みを通して、最終的に協働が実現できればいいのではないかと考えます。私たちもそこを目指しているという段階なので、企画内容の具体的なところは、まだ申し上げられないのですが。

[委員長] よろしいですか。

ほか、いかがでしょうか。

[事務局] 今の〇〇委員のお話で、〇〇委員はどんなところを頭に思い描きながらご質問があったのかなというところを逆にお聞きしたいと思います。

[委員] 説明不足で申しわけありません。具体的には、ある程度活動が形になっている分野と、それから余りそうでもない分野、あるいは、ある程度活躍できている市民の層と、これから期待したい、例えばこれから子育て中のママたちの活躍の場をもっとつくる必要があるというのも一つの考え方です。また、むしろ働いている私たちみたいな親父世代の人が地域で活躍できる場をもっと増やしていこうという、そのあたりの何か対象があるかなと。

[事務局] 私も明確な答えができなかったので申しわけなかったのですが、生涯学習や市民活動は、すでに活動していらっしゃる方は既に多方面でご活躍されていらっしゃる方が多い。その中で、まだ参画されていない方をいかに巻き込んでいくかということが課題かなと思います。

ことし10月にママのための防災講座を開催し、子育て世代をあえてターゲットにしたというのも、まさにそのようなねらいがあったのですけれども、シニアの方で、何かしたいけれどもまだ何をしたいかがわからないといったような方も、壁打ちみたいな感じで気軽に来ていただければいいのかなというふうにも思っています。

先日、市民大学校で、まちサポのプレゼンを3回させていただいたのですが、その後3人の方が日を置かずにはいらっしゃって、自分はこんなことを考えていますみたいなことをおっしゃったりして、まさに「思いの種」というところだったのです。

そういう種のところでコーディネートができたり、地域の課題解決といったようなところに結びつけられればいいと考えます。事業という大きなものではないのですが、一步一步というふうに思います。

[委員] 市民活動の良さは、いろいろな人の出番をつくれるというところだと思うので、何かそういう投げかけをどんどんされていってほしいなと思います。

[事務局] 一昨日、図書館とのコラボ事業をやりました。もともと図書館が地域の資源と捉えると、図書館とコラボすることによって市民活動の裾野が広がることを期待して「ビブリオバトル」という書評合戦、本のプレゼンをして、チャンプ本を決めるというイベントだったのですが、実際に10代の女性が2人、それから30代、40代の男性と、多種多様な方がバトラーとして参加してくださいました。多年齢による交流で多様性を認めるような場ができたらいいいと思います。

[委員長] ほかはいかがでしょうか。

[委員] 印刷機の使い方が全くわからないもので教えていただきたいとお願いしましたら、講座をする日ではないにもかかわらず、時間を割いていただき、丁寧に教えていただきまして。私は音楽の団体をやっているのですけれども、それをいつかイベントもしたいというご相談もしたのです。そうしたら、情報発信、宣伝のPRの仕方なんかもいろいろなプランを持っていらして、本当にイベントとか市民活動に関するいろいろなプランを持っているプロの方に、ただで相談できるというメリットを本当に享受しているのだなど、とてもありがたく感じました。同時に、これをできれば全く知らない市民の方々にも、そのメリットを皆さんに感じていただきたいということを私はすごく感じたのです。

1月に来たときにも、入ったところのすぐにオレンジのハローボードが目につきました。すぐ目について、やっていると。活動が本当に身に染みた瞬間で、ここにまず皆さん足を運んでほしいとすごく強く感じたのですね。

それにはどうしたらいいのだろうと、情報発信はいろいろな面でやっていらっしゃるので、これ以上はないと思うのですけれども、やはりここはナッシー号のバスの発着場所でもありますし、まちサポにちょっと寄ってみようか、何かおもしろいものやっているかもしれないねとか、ちょっとここで休んでお茶を飲んでいこうとか、そういう感じで来ていただいて、少しでも滞在時間を長くしていただくことで、そこでやっているイベントなり掲示物なり、そこで相談していらっしゃる団体の方なり必死にサポートしていらっしゃる職員の方なりの活動を目にして、何かおもしろそうだなと思ってもらえれば、きっと垣根はぐんと下がると思うのですね。

ほかの委員の方からもお話がありましたけれども、予算が絡んでくるので余り強くは言えないのですけれども、ちょっとした丸テーブルとか椅子が置いてあると腰かけられます。まちサポの入口に、イベント用の大きなボードなんかを置いていただいたら目立つのではないのでしょうか。ほかの面では、もう本当にこれ以上言うことはないと思っておりますので、これからもよろしく願いいたします。

[委員長] よろしいですか。ご意見として承るということで。

[委員] かかわっていない市民が市役所に入っていくと、あちらが暗いのですよ。だから用事がないと行きづらい。多目的スペースで何かやっても見えないではないで

すか。イベントとかあっても、カザフスタンとか知らないまま終わっているところが結構。センターに通っていて通り抜けたりとかしても、結構入りづらい雰囲気はあるのかなど。興味がある人しか入らないのかなというのはいちよっと思いました。

[事務局] 市でもそのところは十分わかって、私たちも意識しております。本庁舎の入口から入ってくるお客様に、まちサポ側の左側の通路を見てもらえるよう、看板の表示を変えました。あとは、本庁舎の右側に案内板のホワイトボードがあるのですが、そこにまちサポの多目的スペースで何をやっているかを表示できるようにしました。また総合受付で、案内板を設置するなどの工夫は確かにやってはいるのですが、〇〇委員、それから〇〇委員のお話は、どのようにやったらいいのかというところ。一番いいのは、東庁舎の入り口がまちサポのメインの入口になるものですから、あそこに何かをするのが一番いいわけなのですが、なかなか庁舎の建築ができ上がった中で、そこに付属でまたつけるとなると、予算の面とかそのようなところがあって、なかなか効果的なご案内ができていないというのも確かに現実にあるところでございます。

[委員] ふるさとまつりの時に、先ほどのじねんじゃーではないですが、ここでイベントやってもらいたい。向こうにもステージがありますから、向こうで忙しいのはわかりますけれども、ここでもやってもらおうと、ガーッと人の流れができますので、まちサポを白井市民の方にわかっていただくという、そういったことはいかがかなと思います。

[委員長] 前回か前々回に出ていたマルシェの時のトイレや乳児の休憩室とか、近郊でイベントがあるときに、スタンプラリーとか粗品プレゼントなど、寄ってもらえる工夫というのは、いろいろとやりようがあるかなと私も思ったのですが、

[事務局] あと補足でよろしいですか。非常にスタイリッシュなデザインである一方で、空間としては無機質になりがちなものですから、季節折々の手づくりの装飾というのは心がけて、外から入りやすい工夫は行っているところではあります。

先ほど丸テーブルとかを置いたらというご意見もあったのですが、実はエントランスに置いている時期もあります。今は確定申告の時期で、そこに椅子とテーブルを置いたら職員がそこに呼ばれてしまうということがありますので、今は撤去し、様子を見させていただいています。しかし普段はあそこにも椅子とテーブルを設置して、皆さんお座りいただいている状況です。

[委員長] ほかはよろしいですか。

皆さん比較的好意的な意見なので、多少お話を厳し目に。

事業計画案を出していただいているのですが、数字が入っていないなと思います。例えば目標ですね。今年度の実績を踏まえて、例えばフェイスブックのフォロワーをあと何人にするとか、イベントのアンケート満足度を平均値何.5にするとか、あと相談事業、今年度大体これぐらい相談が来たということはわかったわけですから、それを

踏まえて、来年度どのぐらいを目指していくのか。それは量的にも質的にも、もちろん相談の結果どうでしたかというフィードバックを受けているのであれば、そのフィードバックの結果をより改善していくとか。

下半期の事業報告を拝見しても、比較的、推進センターの時代と比較して数字がどうだったかというのは出ていたので、これはこれで大事なことです。今度からは推進センター時代の数字ではなくて、今年度の数字と比較して来年度どうかということが評価されていきますので、ハードルは基本的に上がるわけなのですね。ホップ・ステップ・ジャンプと冒頭おっしゃられたように、ステップの年は、また今年度と同じことだけやってもステップできませんので、そのステップに当たって何か新しい仕掛けとか、本日ご意見で出たようなことを盛り込んでいかないと、いろいろな諸事象でむしろホップ・ステップと行かずにバックしてしまうかもしれないので、そこは気合いを入れて頑張っていたきたいなと思いました。

[事務局] ありがとうございます。

[委員長] どうぞ。

[委員] 一つは、今おっしゃいましたけれども仮説がないのです。19ページから表が31までありますけれども、私の会社だったら怒ります。いらぬと言います。やるのであれば、この表から言えることを書いてください。分析しないと意味がないと思います。

それと、ターゲットの件ですけれども、理想的に言えば、何でも来いといいのですけれども、そんな余裕が白井市にあるのでしょうか。これは課長に聞きたいのですけれども、ある程度のコアターゲットはあるのではないかなと思うのですけれども、どうお考えかなということを知りたいと思います。

[事務局] やはり若者の方々に市政に参画してほしいということがありますので、これは先ほどのまちづくり協議会もそうですし、まちサポの事業もそうだと思います。あとはやはり女性層の方々ですね。これもやはり比較的若い方々というようなところで市でも思っておるところでございますので、そういった方々をいかにまちサポに取り込んでいけるかがこれからのポイントかなと思っています。以上です。

[委員] ちょっと足りない気もするけれども。時間がないので言わないけれども、率直に言うと、このまま人口が減っていきますので、それで白井市は、この先2040年には特に女性が30%ぐらい減ると言われています。何でもかんでもいい顔をするのも大事ですけれども、コアは決めておかないと、資源はどんどん減っていきますので、老婆心ながら一言だけ言っておきたいと思います。以上です。

[委員長] ○○委員、今回最後なのでいいですか。

事務局のほうから何かお答えはありますか。

[事務局] 若い女性、さらに今参画していない方をいかに巻き込むかということも考えていきたいと思っています。

[委員] 私もうまく聞けなかったのですけれども、ターゲットというか理念というか、課長が市政参加というふうにおっしゃったのですけれども、もうちょっと具体的なターゲットがあってもいいのかなと思うのですけれども。市民活動の世界なので、基本的には市民の自由な世界がいいと思うのですけれども、施策としては、市政参加というものが要するに市政に意見を言うという声の参加を求めているのか、あるいは具体的には、子育て支援とか子育ての助け合いというものが減っていくので、そういうものをできるようにしましょうとか、あるいは高齢者介護の助け合いというものをふやしていきましょうとか、あるいは働ける場、カフェとか食べていける、自己実現しつつ食べていけるような企業というか、商いというか、そういうものをふやしていくのかという、ある程度何か方向性というのがあるのもあってもいいのかなというふうに思います。

[委員長] あと、お一方、お二方ぐらいですが。

〇〇委員、〇〇委員は、きょうはよろしいですか。静かですけれども、いいですか。ほかの方はよろしいですか。

おおむね初年度としては、皆さんの頑張りで感謝もされているということなのですから、また来年度に向けて、これだけだと寂しいので〇〇委員からあったように、稼働率が低い月が何で低かったのかとか、先ほどフェイスブックのじねんじゃーが好評だったとしたら、じねんじゃーにまた出てもらおうとか、単に数字を羅列するだけではなくて、その原因は何なのかとか、それを改善するためにはどういう方策が必要なのかということまで、来年度の事業計画のときにはそれも出てくると、より皆さん安心するのではないかなと思いますので、ホップ・ステップ・ジャンプのステップの年に頑張っていたいただければなと思います。

そうしましたら、議題の4はこれにて終わらせていただこうと思います。

(5) 平成31年度市民活動推進委員会の予定について〔公開〕(資料7)

[委員長] 最後に、議題の5として、来年度、平成31年度の委員会の予定等についてお話をよろしくお願いいたします。

《事務局より資料7に基づき説明》

[委員長] 皆さんのご協力のおかげで、議題5つにもかかわらず、時間ぴったりに終わらせることができましたので、また次回もよろしくお願いいたします。お疲れさまでした。